医師会長エッセイ

ポラリスを仰ぐ北の大地から

丙午（ひのえうま）

恵庭市医師会　会長　島田（しまだ）　道朗（みちろう）

2026年の干支（えと）は丙午です。十干（じっかん）の丙（ひのえ）と十二支の午（うま）が組み合わさった年で、60年に１度巡ってきます。

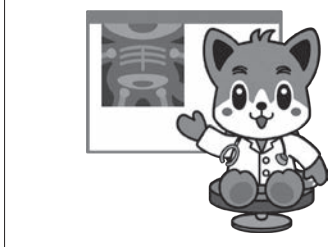
丙午の年には出生率が下がると言われ、実際60年前の1966年（昭和41年）には出生率が顕著に低下しました。

江戸時代初期、「丙午の年には火事が多い」という迷信と、「丙午年生まれの女は気性が荒い」という迷信が『八百屋お七』の歌舞伎や浄瑠璃をきっかけに広まったということらしいです。

江戸時代、恋する男に会いたい一心で、街に付け火をして火刑にされたお七の悲劇が人気となりました。このお七が丙午年生まれと描かれたことから「丙午年生まれの女は気性が荒く、夫の命を焼き滅ぼす」という女性の結婚に関する迷信に変化したという説です。

これを、昭和当時のマスコミが盛んに伝えた事で、丙午の迷信が実際の子作り行動に影響したと考えられています。事実それ以前の丙午の年ではこのような極端な出産低下はなかったそうです。昭和のフェイクニュースとでも言えるでしょう。

前回の丙午（1966年）の合計特殊出生率は前年の2.15から1.58に著しく低下しました。翌年は2.23と回復している事から、丙午の迷信の影響が確実にあったと言えるでしょう。さて、2026年出生率は低下するでしょうか？2024年の合計特殊出生率は1.15で、すでに1966年を大きく下回っています。もし今年、60年前のように急激な出生数の減少があれば、日本が直面する少子高齢化に拍車をかける事になるでしょう。しかし、現在の出産を希望するカップルが丙午の迷信によって出産を遅らせるという行動を取るとは考えにくいし、そうでないことを願います。しかし、今年単年の急激な出生数の減少がないとしても、少子化は深刻であり、積極的な少子化対策は喫緊の課題である事に変わりはありません。丙午がどうのこうのと言っている場合ではなさそうです。



Actions
アクションズ
若手医師活動報告
投稿大募集!!
TEL：011-231-7661
E-Mail：ihou@m.doui.jp